より確かな自分の考えをもつことができる児童の育成

～交流場面で表現と思考を促す「伝える」「聞く」「再考察する」工夫を通して～

Ⅰ　主題設定の理由

主体的・対話的で深い学びの実現による確かな学力の育成に向け、第１２次沼田市教育水準向上研究＜第３年次＞推進計画では、「学習の基盤となる『言語能力』『情報活用能力』『問題発見・解決能力』などを図る学習活動の充実」を指導の重点の一つとしている。

学校においては、これまでも、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んできた。しかし、指導においては、目的や視点を明確にもたせて主体的に交流させることや、交流を通して学んだことを整理する時間を確保することなどに難しさを感じる。そのため、児童も交流の必要感をもって伝えたり聞いたりすることができない、交流が一部の児童の発表にとどまってしまう、他者の考えを生かして自分の考えを深めることに至っていない様子も見られる。

そこで、これらの課題の解決に向けて、言語活動の充実、言語能力の育成の面から働きかけることを考えた。交流場面で行われる「伝える」こと、「聞く」ことを、言語能力を構成する資質・能力のうち、思考力・判断力・表現力等に関わる「言葉を通じて伝え合う力」、「情報を多面的・多角的に精査し構造する力」につながるものと捉える。また、交流を通して思考すること、その中でも特に後半部分に焦点を当てて「再考察する」ことを「考えを形成し深める力」につながるものと捉える。そして、この３つに関わる手立てを授業の中に意図的、計画的に位置付ける。具体的には、必要感をもって交流活動に向かい、分かりやすく伝えるための工夫、他者の考えと比べ、考えながら聞くための工夫、もう一度考え、考えを確かにするための工夫を、学級の実態や教科に応じた形で取り入れる。そうすることで、児童が交流場面で表現し、思考し、自分の考えを見直したり、理由や根拠をはっきりさせて確信をもったりしていく。その結果、自分の考えをより確かなものへとすることができるようになっていくと考える。

以上のことから、交流場面で表現と思考を促す「伝える」「聞く」「再考察する」工夫を通して、より確かな考えをもつことができる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

Ⅱ　研究の内容

１　研究構想図

より確かな自分の考えをもつことができる児童

交流場面で表現と思考を促す工夫

【手立て3】再考察する　《考えを形成し深める力》

もう一度考え、考えを確かにするための工夫
- e.再考察につなげるための発問や、大切な視点の確認をする
- f.考えを整理するための言葉や表現（話型）を視覚的に提示する
- g.自分の考えの変化、修正、付け足し、新たな気付きなどを自分の言葉で整理したり伝え合ったりする
- h.再考察後の自分の考えの状況を確かめ、交流を通して変化や深まりを自覚させる

【手立て2】聞く　《情報を多面的･多角的に精査し構造する力》

他者の考えと比べ、考えながら聞くための工夫
- c.多様な考えに触れることができる交流活動の形態や構成員を工夫する
- d.聞くときの視点（よさ・取り入れ・共通点/相違点/付け足し/質問）ハンドサインを活用する

【手立て1】伝える　《言葉を通じて伝え合う力》

必要感をもって交流活動に向かい、分かりやすく伝えるための工夫
- a.分かりやすく伝えるための表現の仕方（話型）を視覚的に提示する
- b.課題に対する初めの自分の考えの状況を自覚させ、各自に交流の必要感をもたせる

～児童の実態～
- 交流活動に必要感をもって、主体的に取り組めていない。
- 一部の児童の発表にとどまっている。
- 他者の考えを生かして、自分の考えを十分に深めることができていない。

～教師の課題～
- 目的や視点を明確にした交流活動の設定
- 十分考えさせる時間の確保

２　授業改善に向けた手立て

以下の、手立て１、手立て２、手立て３に挙げたａ~ｈの全てを１単位時間の中で網羅するのではなく、学級の実態や教科、学習の内容等に応じて適するものを選択し、組み合わせて活用する。

【手立て１】伝える　　「言葉を通じて伝え合う力」

◆必要感をもって交流活動に向かい、分かりやすく伝えるための工夫

ａ．自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができるようにするために、各教科で使用する用語や、順序を示す言葉や接続詞、理由を伝える言い方などを視覚的に提示する。（図１）

※学年や学級の実態に合わせて示す。

わたしは～と思います。考えます。

つけたす	はんたい	りゆう	じゅんばん
さらに しかも とくに また	しかし けれども でも	なぜなら だから そのため このように	まず つぎに それから さいごに

図１「伝える」話型

ｂ．伝え合う意欲を高め、各自が交流の目的をもつことができるようにするために、交流前に、課題に対する初めの自分の考えの状況を自覚させ、「自分の考えの状況」にあてはまる色を選んで表示させる。（図２）

※ワークシートやノートに書かせる、ロイロノートスクール（以下、ロイロ）に色の丸を付けさせる、ロイロのカードの色をこの３色にする、机の上に席札状にしたものを置かせるなど、使用する学習用具や学級の実態に合わせた活用方法を工夫する。

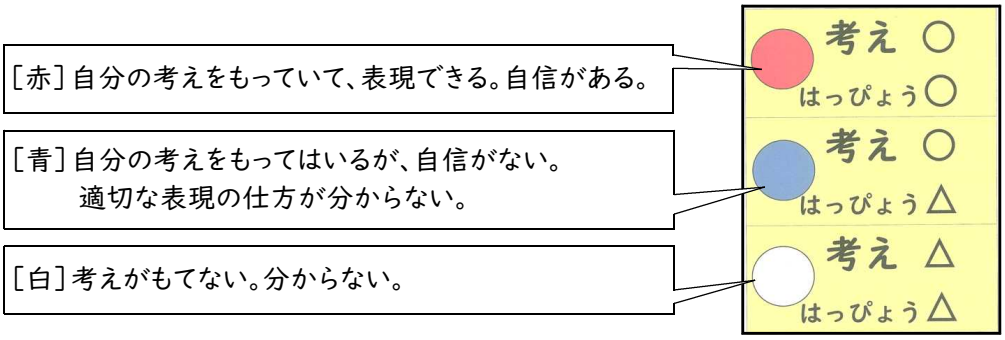


図２　自分の考えの状況

【手立て２】聞く　　「情報を多面的・多角的に精査し、構造する力」

◆他者の考えと比べ、考えながら聞くための工夫

ｃ．多様な考えに触れることができる交流活動の形態（ペア・グループ・全体）や構成員（考えの同質・異質）を工夫する。

ｄ．関心をもって聞けるようにするために、また、自分の考えを修正したり、深めたりしていくことができるようにするために、聞くときの視点として、「他者の考えのよいところ・取り入れたいこと・同じところ」、「ちがうところ」、「付け足したいこと」、「質問したいこと」を示し、ハンドサインを活用して表すようにする。（図３）

※話したり聞いたりする場面でハンドサインとして活用することを基本としつつ、この視点をワークシートに取り入れて、書く場面で活用することもできる。

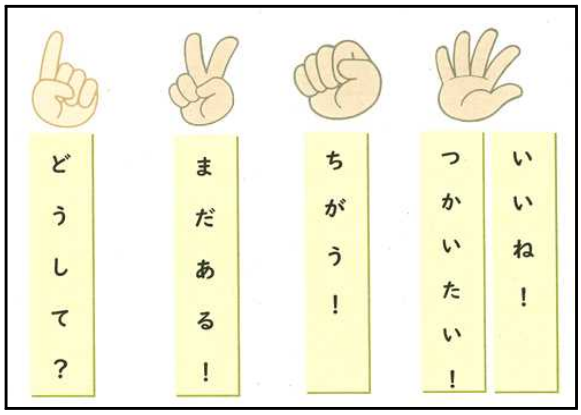


図３　「聞く」視点のハンドサイン

【手立て３】再考察する　　「考えを形成し深める力」

◆もう一度考え、考えを確かにするための工夫

ｅ．再考察につなげるために、理由や根拠を明確にさせるための発問、問い返しの発問やゆさぶりの発問などを行ったり、再考察する上で大切になることを確かめたりするようにする。

ｆ．書き出しの言葉やつなぎ言葉など、考えを整理するための言葉や表現を視覚的に提示する。（図４）

ｇ．自分の考えの変化したところや、新たな気付きを付け足す、不要になった部分を削除するなど、考えを整理したり、自分の言葉で改めて表現したりする時間を確保する。

ｈ．再考察後、手立て１「ｂ」の方法を用いて、再度「自分の考えの状況」を確かめさせることで、交流活動による考えの変化や深まりを自覚させる。

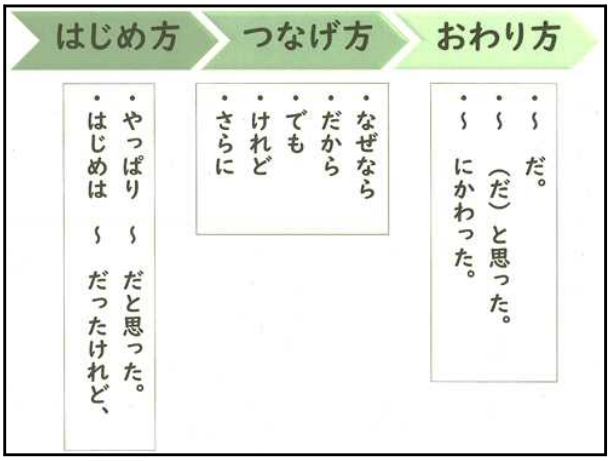


図４「再考察する」話型

Ⅲ　成果と課題

１　成果

（１）手立て１「伝える」に関わる成果

・自分の考えを分かりやすく相手に伝えられるようにするために、日常的に、順序を示す言葉や接続詞、理由を伝える言い方、各教科で使用する用語や表現を視覚的に掲示し、考えを表現したり、説明したりする際の補助として児童に意識させたことで、児童が選択し、組み合わせをしながら、自分の考えを整理して分かりやすく伝えることができるようになった。

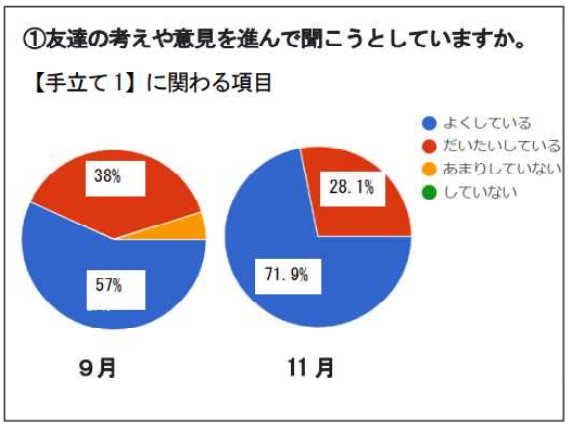


図５　手立て１に関わるアンケート調査結果

【調査対象】所員・研究員担当クラス児童７７名（以下同様）

・課題に対して、自分がどのような考えであるのかということを表す型を示し、色で「自分の考えの状況」について、交流前に児童自身が確認したことで、各自の交流の目的が明確になった。また、自分の考えの状況（色）を自覚することで、「自分の考えをよりよくしたい」という思いを強くし、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりすることに目的や必要感をもって、主体的に交流できた。（図５）

（２）手立て２「聞く」に関わる成果

・「ペア」、「グループ」、「全体」など、課題に合わせて交流する形態や構成員を工夫したことで、多様な考えに触れさせることができ、考えをより確かにすることにつながった。

・ハンドサインを活用させたことで、何に気を付けて話を聞けばよいのかを意識させることができ、特に「質問」や「付け足し」「まだある」などを交えた交流活動が多く見られた。（図６）
・児童の「自分の考えの状況」を教師が把握できたことで机間指導や意図的指名がしやすく、効果的な交流活動を短時間でコーディネートすることができた。

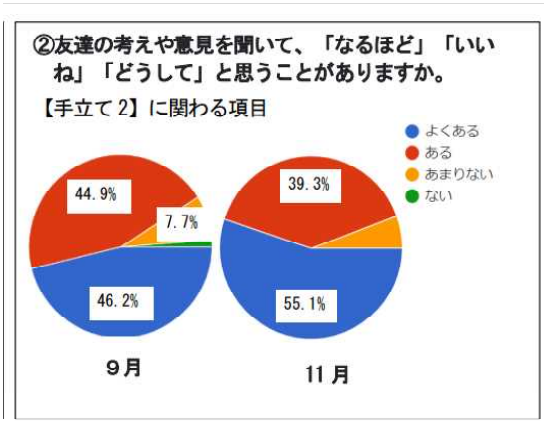


図６　手立て２に関わるアンケート調査結果

（３）手立て３「再考察する」に関わる成果
・再考察前の全体交流において、問い返しやゆさぶりの発問をしたことで、再考察を通じて自分の考えをよりよくすることができた。
・交流後に再考察したことで、友達の考えから気付いたことを新たに付け足したり、自分の考えに確信をもったことや納得したことを整理して書いたり、伝えたりしている児童が増えた。（図７）
・再考察後の自分の考えについて、「自分の考えの状況」を再度確認させたことが非常に有効であった。自分の考えの変化に気付かせることができたため、児童が交流することのよさを実感するとともに、達成感や自信につながった。（図８）

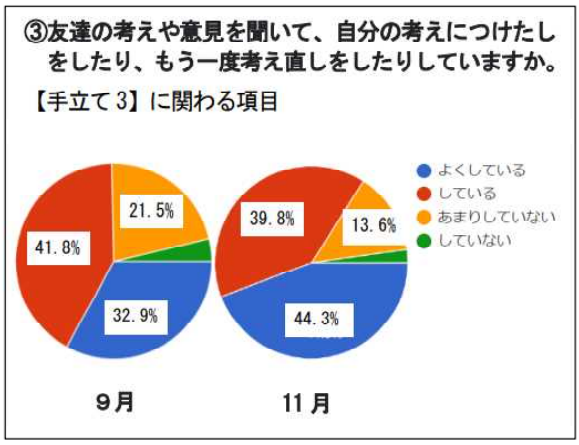


図７　手立て３に関わるアンケート調査結果①

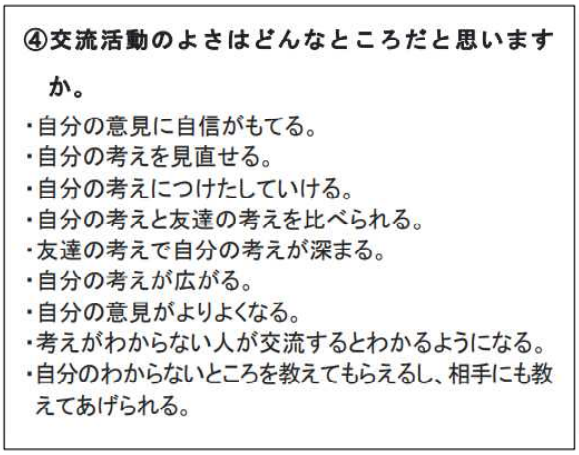


図８　手立て３に関わるアンケート調査結果②

２　課題
・ねらいや学習内容、学年・学級の実態に即して再考察を充実させるためには、どのツール（ノート、ワークシート、ロイロ）を使うのが適切か吟味する必要がある。
・「より確かな自分の考えをもつ」児童の姿とはどのようなものか、教師が具体的なイメージをもち、交流活動の形態や適切な時間配分や発問を考える必要がある。
・研究を進める中で、例えば道徳などでは、再考察の後にも交流を行うことがより効果的であることが分かってきた。学習活動を精選し、時間を生み出して行えるとよい。
・３つの手立てを組み合わせたことにより、交流場面での表現と思考を促すことができ、より確かな考えをもたせることにつながったが、交流をより一層活発にする工夫や、再考察の意義を実感させる機会を位置付けた単元の構想も重要である。

Ⅳ　研究の実践

実践例１　４年　国語　　沼田市立白沢小学校　教諭　鯉渕佑委

１　単元名　　中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう
「世界にほこる和紙」～百科事典での調べ方～伝統工芸のよさを伝えよう
（光村図書　四年下　P.４３～５７）

２　単元の目標

【知識及び技能】	○事典の使い方を理解し使うことができる。 ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
【思考力､判断力､表現力等】	○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。
【学びに向かう力､人間性等】	○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

３　評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①事典の使い方を理解し使っている。（知（２）イ） ②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。（知（３）オ）	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(思Ｃ（１）ウ) ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（思Ｃ（１）ア、Ｂ（１）ウ）	①進んで中心となる語や文を見つけて要約しようとしている。 ②自分の考えとそれを支える理由や事例との関係の書き表し方を工夫しようとし､学習の見通しをもって､調べて分かったことなどをまとめて書こうとしている。

４　指導と評価の計画（全１４時間予定、本時はその６時間目）　(◎は指導に生かす評価､●は評定に用いる評価)

過程	時間	ねらい（○）と主な学習活動（・）	評価	評価の観点（方法）
つかむ	1	○伝統工芸について関心をもち、学習の進め方について見通しをもつことができる。 【単元のめあて】伝えたいことを選んで、伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作ろう。	◎	態②（記述・発言）
	2	○「世界にほこる和紙」を読み、分かったことを話し合いながら、文章構成を捉えることができる。 ・「始め」「中」「終わり」に分けた後、接続詞や話の中心に着目し、「中」を２つのまとまりに分ける。	●	態①（記述・発言）
追究する①	3	○第１段落の要約を通して、中心となる語や文の選び方を考えることができる。	◎	思①（記述・発言）
	4	○文章の構成に基づいて、第３、７、１０段落について、中心となる語や文を用いて要約することができる。	●	思①（タブレット・記述）
	5	○それぞれの事例や段落が何を説明しているのかを考えながら、全文の要約に必要な段落を選ぶことができる。 ・「世界にほこる和紙」は、「和紙のよさを伝える」文章であることを意識しながら話し合う。	◎	思①（記述・発言）
	6 本時	○中心となる語や文、段落を組み合わせて、「伝統工芸のよさを伝える」という目的を意識しながら、文章を整え要約することができる。	●	思①（記述・発言）
	7	○伝統工芸に関する教材文について、中心となる語や文を使って文章を要約することができる。	●	思①（記述・発言）
追究する②	8	○「世界にほこる和紙」の文章構成を基に、リーフレットの書き方の工夫を調べ、リーフレット作りの見通しをもつことができる。	◎	態②（記述・発言）
	9・10	○自分が選んだ伝統工芸について、組み立てメモに情報を整理することができる。	●	知①②（記述・発言）

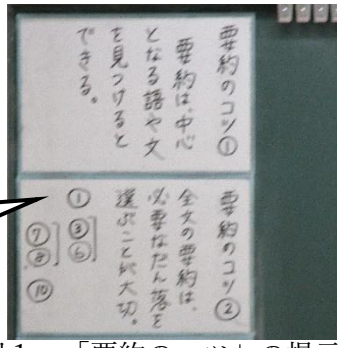
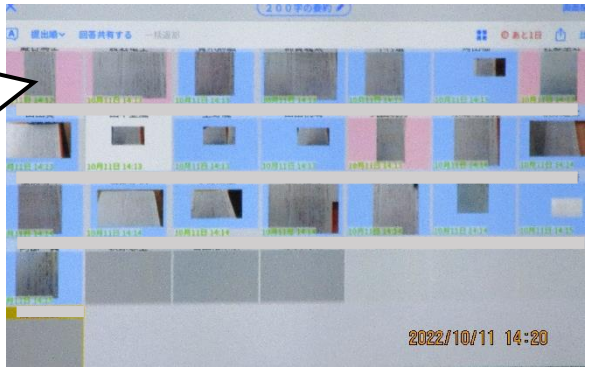
	11・12	○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしながら、リーフレットを作成することができる。	●	思②（記述・発言）
まとめる	13	○読む視点に沿ってリーフレットを読み合い、よりよいリーフレットにするために書き表し方を工夫することができる。	◎	態②（記述・発言）
	14	○作成したリーフレットを読み合い、感想を伝え合って友達の作品のよさを認めることができる。	●	態①②（記述・発言）

5　授業の実際

(1)ねらい　中心となる語や文、段落を組み合わせて、「伝統工芸のよさを伝える」という目的を意識しながら、文章を整え要約することができる。

(2)準　備　教科書、ワークシート、クロームブック、大型モニター

(3)展　開　　**※手立てに関わる箇所をゴシック体で表記する。**

過程	学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
つかむ	1．前時の学習をふり返りながら、本時のめあてを確かめる。 〈めあて〉 「世界にほこる和紙」を要約して、要約名人になろう。 前時までに児童と作成した「要約のコツ」を掲示しておいたことで、児童が自分の考えを形成したり伝えたりする場面において、用語を用いて説明することができた。また、リーフレットの作成や読み合いまで、単元を貫いて意識して使用することができていた（この後、コツ④まで作成）。	5	・黒板上に同じ小学４年生が書いた要約文、大型モニター上に教師が書いた要約文を提示して、分量の見通しをもたせた。 **・前時までにまとめた「要約のコツ」をふり返り、本時の学習の見通しがもてるようにした。** **【a. 話型の活用】**  図１　「要約のコツ」の掲示
追究する	2．学習の流れを確認し、「世界にほこる和紙」を２００字以内で要約する。 3．要約文を写真に撮り、自分の考えの状況に合わせた色のテキストに貼り付け、ロイロ上で提出する。 「自分の考えの状況」を使うことに児童が慣れていたため、「完成していなくても、どのように考えたのかを説明できる」状況を赤、「完成はしているが、説明は難しい」状況を青など、児童自身が成果物でなくその過程を重視することができた。	15	・再考察までの見通しをもつことができるように、予め学習の流れを提示しておいた。 **・時間で区切り、自分の考えの状況をテキストの色で表し、チェックさせた。** **【b. 自分の考えの状況】**  図２　チェック後提出した様子

	4．回答共有機能を用いて、友達と要約文を読み合い、よさを取り入れる。	10	・「段落の選び方」「言葉の使い方やつなぎ方」など、読む視点を与えた。 ・２００字の要約文のため、口頭での伝え合いではなく、タブレット上で読み合うことを交流活動と位置付けた。【c. 交流活動の工夫】 ・ハンドサインをする際の視点をもとに、よかったところをワークシートにメモさせた。【d. ハンドサインの活用】 図３　ワークシートにメモする様子
	ワークシートに「よさや取り入れたいところ」とハンドサインをする際の視点を活用したことで、目的をもって友達の要約文のよさを考えることができた。また、自分の考えとの違いに気付いた児童から、再考察に移っていくことができた。		
	5．全体でよさを交流する。		・再考察につなげるために、どのような要約が分かりやすいのか、児童によかった要約を紹介してもらい、その工夫をまとめた。【e. 発問・視点】 図４　全体交流の様子
	共有や発表で終わりにせず、再考察するときのヒントを全体で確認することで、再考察のポイントが分かり、自分の考えの状況が赤であった児童もよりよいものを目指して自分の考えを修正することができた。		
	6．自分の要約文を仕上げて、「自分の考えの状況」を再チェックする。	10	・再考察の流れを確認しておいた。 ・初めと比較し、「赤から赤」、「青から赤」であった場合、どのように考えが変わったのか確認した。【h. 変容の自覚】 図５　再チェックして提出した様子
	図４で示した全体交流を取り入れたことで、「つなぎ言葉を付け足した」「必要な段落が分かった」など児童自身が修正のポイントを挙げ、「要約のコツ」としてつなげることができた。		

まとめる	7．本時の学習をまとめ、ふり返る。 〈まとめ〉 要約は、中心となる文を組み合わせ、つなぎ言葉を入れて文章の内容を伝える。	5	・児童の発言や気付きを中心にまとめた。本時のまとめは、要約のコツ③として、次時につなげた。 ・①分かったこと、②友達のよかったところ、③これから生かしたいこと、の３観点で振り返りをさせた。 ・次は、他の教材文で要約のコツを生かしていくことを伝え、学習の見通しをもたせた。

【評価項目】（思考・判断・表現①）
○中心となる語や文を組み合わせて、接続詞などを用いて文章を整え要約している。（ワークシート）

6　成果と課題

（１）成果

①手立て１に関わる成果

・各時間のまとめとして「要約のコツ」を作成し、児童が自分の考えを形成したり伝えたりする場面で、用語を用いて説明することができた。
・児童が「自分の考えの状況」を使うことに慣れていたため、状況の変化を目指して、児童が必要感をもって交流活動に向かうことができた。

②手立て２に関わる成果

・多様な交流活動の提案として、タブレット上でお互いの考えを読み合うことを交流活動と位置付けた。ワークシートにハンドサインをする際の視点を活用したことで、目的をもって友達の考えを読むことができた。
・学習の流れを事前に確認しておいたため、自分の考えとの違いに気付いた児童から再考察に移ることができた。

③手立て３に関わる成果

・交流活動後、よかった要約文を大型モニターで共有して、どこがよかったのかを確認したことで、再考察する際の視点をもたせることができた。
・再考察後、再度、自分の考えの状況をチェックしてロイロ上で再提出させたことで、自分の考えの変化を実感することができた。
・青から赤に変化した児童、また、２回とも赤であった児童に理由を発表させることで、再考察で考え直したことを共有し、学習のまとめや振り返りにつなげることができた。

④その他

・大型モニターで要約の見本を見せたことで、文章量やこれから提出するもののイメージがもて、「できそう」という気持ちにつながった。
・複合単元としてつながりを意識したことで、単元の見通しをもちながら学習を進め、リーフレット作りまで意欲と充実感をもって学習することができた。

（２）課題

・本授業では、タブレット上で「読み合う」ことを交流活動と位置付けたが、目的とねらいに合わせて、どんな交流活動が有効か吟味する必要がある。
・自分の考えの状況をチェックすることは、意欲の向上に非常に有効であったが、自分の考えをもつことが難しい児童もいたため、導入での見通しのもたせ方や自力解決場面での支援も重要である。

図６　児童が作成したリーフレット

実践例２　４年　国語　　沼田市立利南東小学校　教諭　尾形あや

１　単元名　気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう
「ごんぎつね」（光村図書　四年下　Ｐ．１１～３３）

２　単元の目標

【知識及び技能】	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知（１）オ）
【思考力、判断力、表現力等】	○登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思C（１）エ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思C（１）オ） ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。（思C（１）カ）
【学びに向かう力、人間性等】	○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

３　評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（知（１）オ）	①「読むこと」において、登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（思C（１）エ） ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（思C（１）オ） ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（思C（１）カ）	①学習の見通しをもって、読んで考えたことを話し合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとしている。

４　指導と評価の計画（全１２時間予定　本時は８時間目）　（◎は指導に生かす評価　●は評定に用いる評価）

過程	時間	ねらい	評価	評価の観点（方法）
つかむ	1	○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら読み、物語の内容や表現方法について自分と全体の感想をまとめることができるようにする。	◎	思②（記述・発言）
	2	○ごんがどんなきつねかを話し合い、「ごんぎつね」を読む目的や学習の進め方について見通しをもつことができるようにする。 【単元の課題】登場人物の気持ちの変化に着目して読み、ごんの思いは兵十に伝わったかについて考えたことを話し合い、文章にまとめよう。	◎	態①（記述・発言）
追究する	3	○１の場面を読み、ごんの行動について叙述を基に捉え、そのときのごんの気持ちを想像することができるようにする。	◎	知①（記述・発言）
	4	○２の場面を読み、ごんの行動について叙述を基に捉え、そのときのごんの気持ちを想像することができるようにする。	●	知①（記述・発言）
	5	○３の場面を読み、ごんの行動について叙述を基に捉え、そのときのごんの気持ちを想像することができるようにする。	◎	思①（記述・発言）
	6	○４と５の場面を読み、ごんの行動について叙述を基に捉え、そのと	◎	思①

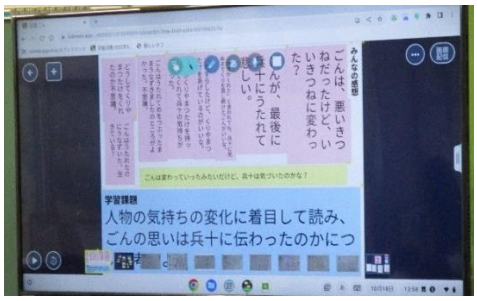
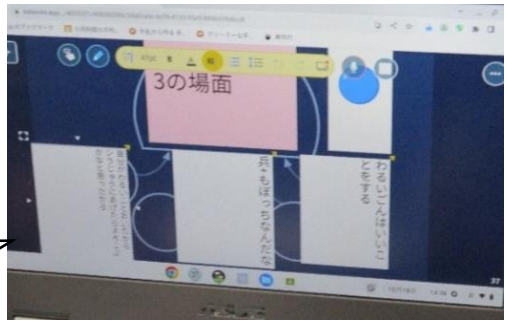
		きのごんの気持ちを想像することができるようにする。		（記述・発言）
	7	○６の場面を読み、ごんの行動について叙述を基に捉え、そのときのごんの気持ちを想像することができるようにする。	●	思① （記述・発言）
	8 本 時	○物語全体を通じて、ごんの気持ちが最も大きく変化した場面について考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができるようにする。	◎	思③ （ロイロノートと記述・発言）
	9	○１と６の場面について、兵十の行動について叙述を基に捉え、そのときの兵十の気持ちを想像することができるようにする。	●	思② （記述・発言）
まとめる	10	○学習課題に示された、ごんの思いが兵十に伝わったかどうかについて、詳しく読んで分かったことなどを基に文章にまとめ、一人一人の感じ方などについて違いがあることに気付くことができるようにする。	●	思③ （記述・発言）
	11 12	○物語を読む視点（登場人物の変化について）を決めて新美南吉の他の作品を読み比べ、自分なりの考えをまとめることができるようにする。	●	態① （記述・発言）

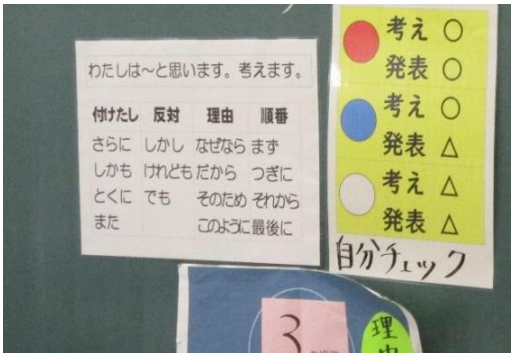
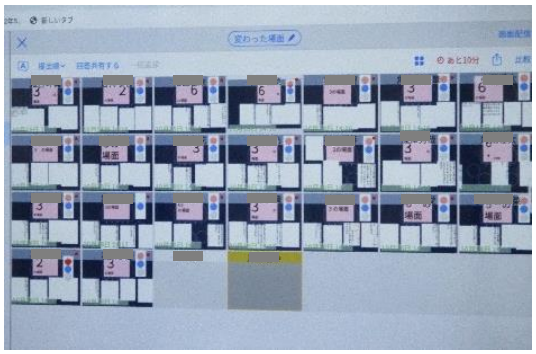
5　授業の実際

(1) ねらい　　物語全体を通じて、ごんの気持ちが最も大きく変化した場面について考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができるようにする。

(2) 準　備　教科書、クロームブック、大型モニター、交流カード、前時までのワークシート

(3) 展　開　　**※手立てに関わる箇所をゴシック体で表記する。**

過程	学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
つかむ	１．これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 大型モニターに、前時までのワークシートや学習内容を映し出し、短時間で復習をすることができた。 ＜めあて＞ ごんの気持ちが最も大きく変わったのはどの場面かを考え、話し合おう。 ２．本時の学習の見通しをもつ。	3	・これまでの学習内容を振り返らせた。  図１　大型モニターを使用して復習する様子 ・ごんの気持ちの変化が大きいと思う場面を前時の終末に選ばせておいた。
追究する	３．ロイロのクラゲチャートを使用し、自分の考えを整理する。 (1) ごんの気持ちの変化が大きいと考える場面を選ぶ。 (2) ワークシートから、ごんの行動と気持ちを書いた文章を抜き出し、クラゲチャートに記入する。 クラゲチャートで考えを整理し直すことで、自分の立場の根拠となる叙述を複数提示する意識が高まった。	10	・教科書の叙述から読み取った人物の行動と気持ちを、ロイロのクラゲチャートに記入させた。  図２　クラゲチャートで考えを整理する様子

	(3) 自分の考えの状況をチェックする。（本学級では、この活動のことを「自分チェック」と呼ぶことから、以後「自分チェック」と表記する。）	12	・自分の考えを説明できるようにするため、順序を示す言葉や接続詞を提示した。【a. 話型の活用】 ・ロイロに自分の考えの状況に合う色を塗り「自分チェック」をさせた。 【b. 自分の考えの状況】  図３　話型と考えの状況カードを提示する様子
	自分が今どんな考えをもてているのかを自覚し、「今は青色だけど、赤色になることを目指そう」、「自分の考えを確かめたいな」などの目的意識をもつことができた。		
	４．クラゲチャートを見せながら交流し、考えを伝え、友達の考えを聞いて、精査する。 (1) 同じ考えや違う考えの人と考えを伝え合う。	15	・回答共有機能を使って、児童が自由に閲覧できるようにし、１度目は同じ場面を選んだ者どうし、２度目は違う場面を選んだ者どうしで交流できるようにした。【c. 交流活動の工夫】  図４　回答共有し大型モニターに映し出す様子
	回答を共有することで、児童は同じ考えの人や違う考えの人を積極的に見つけて交流活動をスムーズに行うことができた。		
			・話型を使用したり、根拠を示したりしながら考えを述べるよう指導した。【a. 話型の活用】 図５　クラゲチャートを見せ合い交流する様子
	交流場面では、クラゲチャートを見せ合って、自分の考えとの共通点や相違点を伝えることができた。自分の考えをよりいいものにしようと、目的意識をもって交流活動に臨む様子が見られた。		

(2) 友達の考えを聞く。「いいな」、「違うな」、「自分の考えに取り入れたいな」などのハンドサインと同様の視点を盛り込んだ「交流カード」にメモをする。

「交流カード」にメモを残すことで、自分の考えと友達の考えを比較することができた。
２回目の交流では、「自分の意見とは違うけど、いいなと思ったから“違う意見”ではなく、“いいな、使いたいなと思う意見”のところにメモしよう」など、考えながら友達の意見を聞く姿も見られた。

・交流をして得た新たな気付きを、ハンドサインの視点を入れた「交流カード」に記録させた。
【d. ハンドサインの活用】

図６　交流カードに記録する様子

５．意見交流を基に、改めて自分の考えを文章でまとめ、再考察をする。
(1) 交流カードを見て、考えを変えたり付け加えたりする。
(2)「自分チェック」をする。

書く時間を十分確保し、新しい気付きや自分の考えが変化した部分、付け足したい部分、不要になった部分等を整理することができた。

・意見交流を基に改めて自分の考えを文章でまとめさせた。　【g. 考えの整理】
・ワークシートに「自分チェック」をさせた。
【h. 変容の自覚】

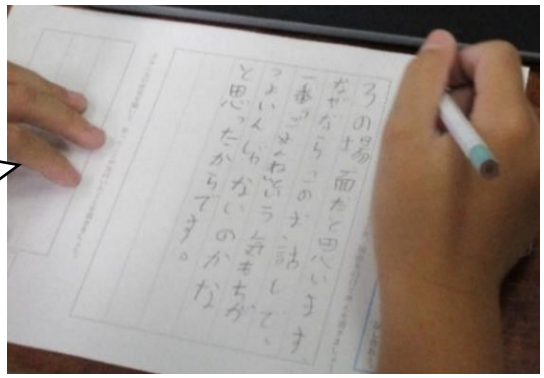


図７　再考察の様子

友達の考えを参考にして、自分の根拠を増やしたり、考えを修正したりすることができた。友達の意見を聞いて納得し、考えを変容させた児童もいた。
再考察後の「自分チェック」では、多くの児童が赤色になっていた。

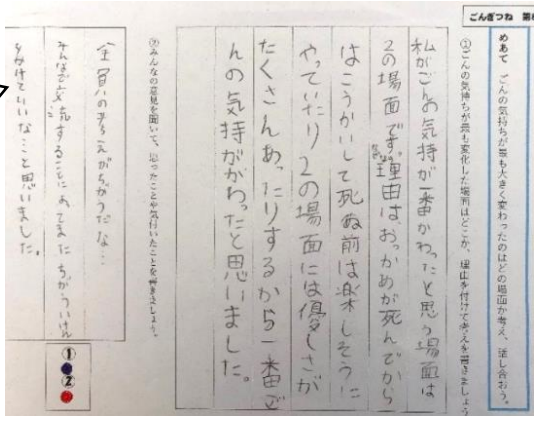


図８　再考察後のワークシート

・全員の考えを共有するために、多様な考えを取り上げ、発表させた。

まとめる	６．まとめをする。 ＜まとめ＞ ・それぞれの選んだ場面はちがう。 ・ごんは、いつも兵十のことを考えるようになった。 ・ごんは、だんだんやさしくなった。 ７．振り返りをする。	5	・授業を通して学んだことや、友達の意見を聞いて思ったこと、自分の考えが変わったことなどを書かせた。

【評価項目】（思考・判断・表現③）
○登場人物の気持ちの変化について、考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（ロイロノートとワークシート記述・発言）

６　成果と課題

（１）成果

①手立て１に関わる成果について

・課題に対する自分の考えの状況を、赤・青・白で示し「自分チェック」をさせたことで、各自の交流の目的を明確にして交流することができた。また、「自分チェック」で自分の考えの状況を見つめることにより、交流することのよさを感じたり、自分の学びを自覚したりすることができた。

・考えを整理する際に、「まず、それから、なぜなら」などの話型を視覚的に提示したことが、交流活動で自分の考えを相手に分かりやすく説明することにつながった。

②手立て２に関わる成果について

・交流では、同じ場面を選んだ者どうし、違う場面を選んだ者どうしとに分けて、それぞれ交流したことで、自分の考えとの共通点･相違点を相手に伝えることができた。

・友達の意見を聞く際は、「いいところ」、「違うところ」、「自分の考えに取り入れたいところ」、などの聞く視点を意識して考えながら聞く姿とともに、相手に伝わるように話そうとする姿も見られた。

③手立て３に関わる成果について

・再考察では、交流カードに書き残したことを手がかりにして、自分の根拠を増やしたり考えを修正したりすることができ、全員が根拠を示しながら文章に書くことができた。

④その他

・ロイロを用いて、短時間でこれまでの学習を想起させ、授業の流れを分かりやすく板書したことで、児童に活動の見通しをもたせることができた。

・交流活動前に回答を共有したことが、活発な交流活動につながった。

・話すことが苦手な児童も、ロイロで考えを示しながら、交流活動に積極的に取り組むことができた。また、感じ方の違いを視覚的に捉えながら考えを伝えたり聞いたりすることができ、同じ場面を選んでも、理由が異なることを感じることができた。

（２）課題

・ロイロに文章を書き抜く作業は、児童の実態に合わせて時間を設定したり、ツールを精選したりするなどして、複雑化しすぎないような工夫を取り入れるとよい。

・再考察後に全体で話し合う際に、多様な意見を取り上げながら活発に話し合い、一人一人の考えの違いに気付かせることができると、深い学びにつながる。

・振り返りで、考えを変えた児童に、「なぜ考えを変えたのか」を問いかけるなどして、振り返りの充実につなげたい。

実践例３　２年　道徳　　沼田市立薄根小学校　教諭　宮沢菜穂子

１　主題名　正しいと思うことを　　Ａ－（１）善悪の判断、自律

２　ねらいと教材

ねらい　　主人公の心が曇っていたときと、心が晴れてきたときの気持ちを比べることで、正しいと思うことを行うことのよさに気付き、進んで行おうとする心情を育てる。

教材名　『ある日のくつばこで』（日本文教出版　Ｐ．１２６～１３１）

３　主題設定の理由

（１）価値観

人としてやってよいこと、やってはいけないことを区別したり、判断したりすることは、幼いころからいろいろな経験を積み重ねて、身に付けていくべきことである。そして様々な場面で善悪の判断が迫られたとき、自身が正しいと思うことを選択し、実践できることが大切である。しかし、時には、自身の感情や立場を守るために、正しくない行動をしたり、他者の正しくない行動を見過ごしたりすることもある。友達関係によっては、子どもたちは正しいと思うことを行動に移すことに難しさを感じることも考えられる。だからこそ、正しいと思うことを行うよさに目を向けさせ、理解することを通して、進んで正しく判断したことを行おうとする心情を育てることが大切だと考える。

（２）児童観

この時期の児童は、やってよいことと悪いことは概ね理解している。しかし、正しいと思うことがあっても、自分の感情や人間関係に左右されて、流されて行動してしまう姿も多く見られる。そこで、事前に２つの質問をアンケートし、実態把握をした。①「正しいと思ったことがうまく言えなかったことや、できなかったことがあるか」の質問には、23人中「ある」が17人であった。理由としては、「勇気が出なかった」、「何か言われそうだったから」、「友達には言いにくかった」などが挙げられていて、迷いを感じた結果、行動できなかった児童が多いことが分かった。②の「自分が正しいと思ったことを勇気を出して言えたことやできたことはあるか」の質問では、23人中「ある」が16人であった。内容としては、「よくないこと思ったことを先生に報告できた」、「友達にルールを守ることを言えた」などが挙げられていた。そこで、正しいと思ったことを進んですることのよさや理由について丁寧に考えさせることで、今後の学校生活や友達関係をよりよくしていくことにつなげていきたい。

（３）教材観

本教材は、自分が正しいと思うことを進んで行うことのよさや、そうすることによって得られる心の晴れやかさを感じ取らせることができる教材である。主人公のまりこは、かずみがくみ子の靴を隠したのを、一緒にいたとしおと目撃する。かずみから「誰にも言わないでね」と言われ、何の反応もできなかったことと、その後、としおがとった、靴をそっと元通りにしておくという解決の仕方に対し、まりこの気持ちはすっきりせず、心が曇ることになる。心が曇っていたまりこが、「勇気を出そう」と決心した思いを中心発問として考えることで、相手を思いやり、正しいと思うことをすることのよさを感じ取らせたい。また、交流活動を通して、自分が正しいと思ったことをするのは、時として難しさを感じる状況があるが、それ以上によさがあることにも気付かせたい。そして、「正しいと思うことをすることの大切さ」について、各自が自分の考えを深められるようにし、小さなことからでも進んで自分にできることをやってみようと思える心情を育てることにつなげたい。

4　授業の実際

(1)準　備　　教科書、ワークシート、場面絵、短冊、ハートマーク、話型、クロームブック、大型モニター

(2)展　開　　**※手立てに関わる箇所をゴシック体で表記する。**

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
導入	1．本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。 〈めあて〉 「正しいと思うことをする」ということについて考えよう。	2	**・考える時間を十分確保するために、事前に「正しいと思うことを言ったりしたりすることはどうして大切なのか」について、初めの自分の考えをワークシートの下段に書かせ、丸型の枠に自分の考えの状況に合う色を塗らせておいた。** **・アンケートの結果を大型モニターで提示した際にそれらを確認させることで、自分の考えの状況を自覚させるとともに、めあてに対して短時間で個々に問題意識をもたせた。** **【b. 自分の考えの状況】**
展開	2．「ある日のくつばこで」を読んで、まりこの心情について話し合う。 ＜まりこの心の問題をつかむ＞ ①くみこさんの靴を隠す瞬間を目撃して、「誰にも言わないでね。」と言われた時、まり子さんはどんな気持ちだったのだろう。 ・なんだか心がもやもやする。 ・ハートの色は青かな。 ＜まりこの心の問題について考える＞ ②靴は靴箱に戻したのに、どうしてまりこさんの心は曇ったままだったのだろう。 ・注意できなかったから。 ・元通りにするだけでよかったのか悩んでいるから。 図１　心情の視覚化	5	・靴隠しが、「してはいけない悪い行いである」と思っているまりこの気持ちを全体で端的に押さえた。 ・その場で何も言えなかったことや、としおと顔を見合わせていることなどから、ハートの色でまりこの気持ちを全体で確認し、心情を視覚化した。 ・そのままにしておけば、トラブルをやり過ごせたのに、逆に心が曇ってしまった理由について考えさせ、としおの靴を元に戻すという行動は、まりこの心の問題の根本の解決になっていないことに気付けるようにした。 ・この時点のハートの色を全体で確認し、曇ったままの心情を視覚化した。 靴は元の場所に戻っても、まりこにとってはすっきりしていない、かえって不安になっているという気持ちが児童から出された。

展

開

＜まりこの心の問題の解決をめざす＞

③「勇気を出そう。」と決心したまりこさんの心が晴れてきたのは、どうしてだろう。（中心発問）

・お母さんの言葉を思い出したから。

・自分でよくないと思ったことを、きちんと言おうと思ったから。

・かずみさんや先生に話をする勇気が出たから。

・よくないことをそのままにしないでおこうと決めたから。

※交流①【伝える】【聞く】

図４　補助発問から活性化した様子

お母さんの言葉の意味や、お母さんの言葉の何が大事だったのかを考えさせる補助発問をすると、「勇気」のいろいろな意味に気付く児童が増え、交流が活性化した。

【e. 発問・視点】

28

・心が晴れてきたというまりこの心情をハートの色で全体に確認し、心の変化（青色→赤色）を視覚化したあと、自分の考えをワークシートに書かせた。

・グループで交流させる前に、交流の目的を意識させた。また、話型、聞く際の視点、ハンドサインの活用、必要があればメモをとってもよいことなどの確認をした。　【a. 話型の活用】

【c. 交流活動の工夫】

【d. ハンドサインの活用】

図２　ハンドサインを活用して交流する様子

図３　メモを取りながら交流する様子

④正しいと思うことをするときは、どんな気持ちや考えをもつことが大切なのだろう。

・勇気を出して行動すること。

・正しいことをしようとすること。

・してはいけないことはそのままにしないでおくこと。

・相手のためにも注意をすること。

※全体交流【伝える】【聞く】

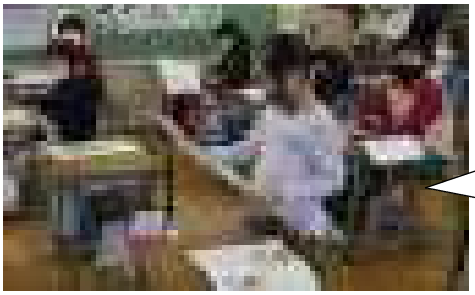
・アンケートの「自分が正しいと思ったことを言えたり行動できたりしたときの気持ち」を生かして全体で考えさせた。

・児童から出された発表は板書し、児童の考えを整理しておいた。

・新たな気付きがあればメモをしてもよいことを再度伝えた。

・「勇気がいることなのに、なぜまりこは決心ができたのか」を改めて全体に投げかけ、母親の言葉のよさや意味を考えさせた。

【e. 発問・視点】

	３．「正しいと思うことを言ったり、したりすることは、どうして大切なのか」についてもう一度考える。 ・自分が嫌な気持ちになるから。 ・自分の気持ちがすっきりするから。 ・お互いのためになるから。 ※交流②【再考察する】 図５　再考察をする様子 自分の考えの状況を表す色についても、その理由を相手に説明している児童も見られた。		・グループ交流や全体交流で得たことを生かして、「自分が正しいと思うことをすることは、どうして大切なのか」について再考察させ、ワークシートに書かせた。　【f. 話型の提示】 ・再度、自分の考えの状況を表す色をワークシートの丸型の枠に塗り、チェックをさせた。 【h. 変容の自覚】 ・自分の考えで、変化したことや納得したことなどを見付けられるように伝えた。 【g. 考えの整理】 ・書けた児童からペアで交流させ、付け足したいことがあれば追加で書いてもよいことも伝え、自分の考えをさらに深めさせた。 【c. 交流活動の工夫】 【g. 考えの整理】 図６　再考察したことのペア交流
終末	４．本時の学習を振り返る。 ・分かったことを全体で確認する。 ・本時をワークシートで振り返る。  図７　再考察の全体共有の様子	10	・再考察を経て、各自の自分の考えの状況を表す色の変化や、分かったこと、新たに気付いたことを発表させ、全体で共有した。 【f. 話型の提示】 【h. 変容の自覚】 白から赤、青から赤への変化や、２回とも赤だった児童が多く、ほどんどの児童に、自分の考えが変化したことや、考えに確証を得られた様子が見られた。また、交流から得たことを、話型を生かした言い方で、初めの自分の考えと変わった所を明確にして発表することができていた。

【評価の視点】
○正しいと思うことをすることの大切さについて、多面的・多角的に考えている。
（聞く態度・発言）
○正しいと思うことをすることのよさについて、自分との関わりで考えを深めている。
（ワークシート・発言）

5　成果と課題

（１）成果

①手立て１に関わる成果

・課題に対して、自分の考えがどのような状況かを、３つの色で自己チェックさせたことで、色に合わせた交流の視点を、毎時間、各自が意識するようになった。

・「友達の考えからヒントを得ること」、「他によい考え方がないか見つけること」、「本当にそれでよいか確証を得ること」など、各自が目的をもって交流することができた。特に、白色や青色の児童は赤色になるよう自信や確証をもちたい、赤色の児童は、自分の考えをさらによくしたいという必要感をもって、毎時間交流することができていた。

・順序を表す言葉や、各教科で使用する用語や表現を普段から視覚的に提示しておき、発表の仕方に生かすことで、自分の考えを相手に分かりやすく伝えられる児童が多くなった。

②手立て２に関わる成果

・交流から得た友達の考えのよいところを、自分の考えに付け足して発表できる児童が増えた。

・「聞く」視点のハンドサインを使うことで、相手に自分の考えがどう思われているのかが分かりやすくなり、お互いの考えのよさの認め合いや各自の自信にもつながった。

・相手の考えに関心をもって聞けるようになり、共感した内容や自分と異なる考えに対し、進んでメモをとる児童が増えたことで、対話的な交流へとつながった。

③手立て３に関わる成果

・再考察の前に「正しいと思うことをするときは、どんな気持ちや考えをもつことが大切なのだろう。」という問い返しをし、全体交流でキーワードを確認したことで、再考察の場面で各自がスムーズに考えることができた。

・書き出しの言葉やつなぎ言葉など、考えを書いて整理するための表現を生かして、自分の考えを分かりやすい文で書けている児童が増えた。また、「再考察する」話型を積極的に使い、自信をもって発表する児童も多く見られた。

・「再考察→交流」の流れで、自分の考えがより深まり、はじめの考えに比べてより納得した考えへと変化したと感じている児童が増えた。

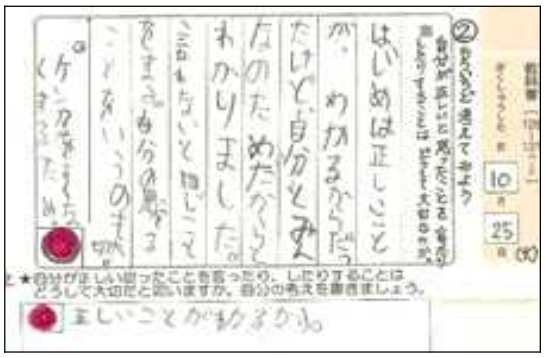


図８　話型を生かした児童の再考察

（２）課題

・事前にではなく、本時の授業の中で課題に対しての自分の考えをもたせる場合、時間の確保や時間配分を計画的にしていくことが必要である。

・他教科で実践する際も、交流活動で得た新しい気付きや、再考察後の自分の考えの変化などを児童にとって明確に感じられるようにしたり、全体で共有したりする時間を充実させられるように考えていくことが必要である。

実践例４　特別支援学級（自閉・情緒）自立活動　　沼田市立升形小学校　教諭　松山香織

１　**単元名**　なかよし交流会を開こう

内容項目

３　人間関係の形成　　【１】他者との関わりの基礎に関すること

【２】他者の意図や感情の理解に関すること

６　コミュニケーション　【２】言語の受容と表出に関すること

【４】コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

【５】状況に応じたコミュニケーションに関すること

２　単元における児童の実態と個別目標

児童	単元における個別目標
A児	・適切なコミュニケーションの取り方を覚え、活用しようとする。【6-(2)】【3-(2)】 ・自分の思いを相手に分かりやすく伝えるためのコミュニケーション手段を自分なりに考え、選択することができる。【6-(4)】
B児	・適切なコミュニケーションの取り方を覚え、活用しようとする。【6-(2)】【3-(2)】 ・場や相手の状況に応じて、コミュニケーションの取り方を自分なりに考えることができる。【6-(5)】
C児	・他者と関わることの楽しさを実感し、思いや考え、気持ちを共有することができる。【3-(1)】【3-(2)】 ・自分の思いを相手に分かりやすく伝えるためのコミュニケーション手段を自分なりに考え、選択し活用することができる。【6-(4)】

３　指導と評価の計画（全９時間予定　本時は５時間目）

時	学習活動	評　価		
		A児	B児	C児
1～2	・よく聞くトレーニング（毎時間、帯活動として行う） ・なかよし交流会について話し合う。 ・なかよし１・２組の児童に、なかよし３組（上学年）としてできること、教えてあげられることを考える。これまでの行事やクラブ、委員会活動を振り返る。	・話す人の方を見て、集中して最後まで話を聞こうとしている。 ・これまでの経験を踏まえ、下学年に教えられることを進んで考えている。	・話す人の方を見て、集中して最後まで話を聞こうとしている。 ・これまでの経験を踏まえ、下学年に教えられることを進んで考えている。	・話す人の方を見て、必要だと思うことはメモを取るなど、集中して最後まで話を聞こうとしている。 ・最高学年としてこれまでの経験を踏まえ、下学年に教えられることを進んで考えている。
3～4	・よく聞くトレーニング ・なかよし１・２組の児童が上学年の行事や活動で知りたいこと等をアンケートを作成し尋ねる。 ・アンケートの結果を集計し、なかよし交流会の発表内容について話し合う。（役割分担について）	・普段の学校生活を振り返り、友人と協力してアンケートを作成している。 ・役割分担を決める際は、友人の思いや考えにも耳を傾けることができる。	・相手が下学年であることを意識して、友人と協力してアンケートを作成している。 ・交流会の発表内容について、自分なりに考え、発表内容を提案している。	・グループの話合いの中心となって、アンケートを作成している。 ・発表内容や役割分担についてグループの中心となって話合いを進めている。

5（本時）	・なかよし交流会の発表内容について、相手に分かりやすく伝えるには、どのような方法がよいか話し合う。	・自分の思いを相手に分かりやすく伝えるための手段を自分なりに考え、選択することができる。	・自分の思いを相手に分かりやすく伝えるための手段を自分なりに考え、伝える相手を意識して選択することができる。	・自分の思いを相手に分かりやすく伝えるための手段を自分なりに考え、選択することができる。
6～7	・よく聞くトレーニング ・なかよし交流会の発表内容をまとめる。発表するときに各々が気を付けるべきポイントをしっかりおさえる。 ・発表練習をする。	・相手を意識して、自分なりに発表の仕方を工夫している。 ・友人の発表練習の様子を見て、口頭でアドバイスしている。	・相手を意識して、自分なりに発表の仕方を工夫している。 ・友人の発表練習の様子を見て、口頭でアドバイスしている。友人からのアドバイスを自分の発表に生かそうとしている。	・相手を意識して、自分なりに発表の仕方を工夫している。 ・友人の発表練習の様子を見て、具体的に口頭でアドバイスしている。
8	・なかよし交流会で、なかよし１・２組の児童に自分たちの取組を発表する。 ・質問タイムで１・２組の児童からの質問に答える。	・相手の顔を見て発表することができる。 ・発表するときのポイントを意識しながら発表することができる。	・相手の表情に意識を向けながら発表することができる。 ・質問と応答のルールを守ることができる。	・相手の表情に意識を向けながら発表することができる。 ・発表するときのポイントを意識しながら発表することができる。
9	・単元の学習を振り返る。	・学習を通して、自分の成長をチェックリストを使いながら振り返ることができる。	・学習を通して、自分の成長をチェックリストを使いながら振り返ることができる。	・学習を通して、自分の成長をチェックリストを使いながら振り返ることができる。

４　授業の実際

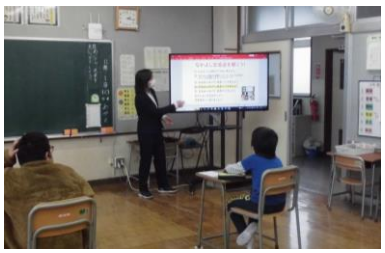
(1) ねらい　　自分の思いを相手に分かりやすく伝えるための手段を自分なりに考え、選択することができる。

(2) 準　備　教師：PC、クロームブック、大型モニター、役割分担表、なかよし１・２組の児童の顔写真、自分の考えの状況を表す型、ハンドサインカード、話型カード

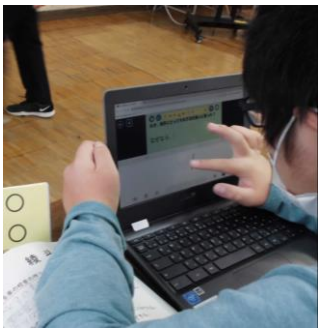
児童：クロームブック、自分の考えの状況を表すプレート

(3) 展開

※手立てに関わる箇所をゴシック体で表記する。

<table>
<tr><th></th><th>主な学習活動</th><th>時</th><th colspan="3">※指導上の留意点及び支援　・個別の学習活動</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>A児</th><th>B児</th><th>C児</th></tr>
<tr><td>つかむ</td><td>1．前時の活動を振り返り、各々の役割分担を再確認し本時の見通しをもつ。
 
図1　大型モニターで単元計画を確認する様子</td><td>5分</td><td colspan="3">全体のめあて
相手にとって分かりやすい発表方法を考えよう。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>個別のめあて
自分の思いを相手に分かりやすく伝えるための手段を自分なりに考え、選択することができる。</td><td>個別のめあて
自分の思いを相手に分かりやすく伝えるための手段を自分なりに考え、伝える相手を意識して選択することができる。</td><td>個別のめあて
自分の思いを相手に分かりやすく伝えるための手段を自分なりに考え、友人の意見も参考にしながら選択することができる。</td></tr>
<tr><td>追究する</td><td>2．ロイロノートを用いて、発表方法を考える。

・なかよし3組の活動について、なかよし1・2組の誰がどんなことに興味をもっているのかを全員でよく確認する。

・相手に伝わりやすい発表方法を自分なりに考え、いくつかのコミュニケーション手段が書かれたカードの中から適切なものを選択する。
 
図2　そのカードを選んだ理由を書く様子</td><td>10分</td><td>・コミュニケーション手段が書かれたカードの中から自分なりに根拠をもって適切だと思うものを選択する。</td><td>・発表相手を意識し、コミュニケーション手段が書かれたカードの中から、自分なりに根拠をもって適切だと思うものを選択する。</td><td>・発表相手を意識し、コミュニケーション手段が書かれたカードの中から、自分なりに根拠をもって適切だと思うものを選択する。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">※自分が発表しやすいという理由で、発表方法や手段を選択するだけではなく、伝える相手や伝えたいことを意識して選択できるように声かけした。また、理由も具体的に述べられるように、話型を意識して個別に声かけした。　【a. 話型の提示】

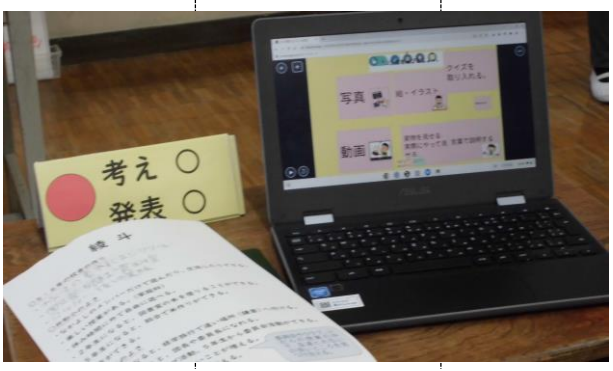
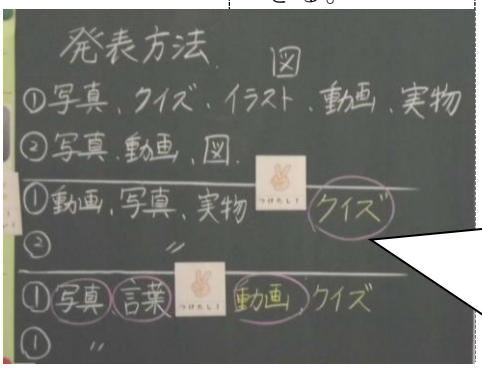
※自力解決の時間を確保した上で、席札状のプレートを用いて、自分の考えの状況を把握させた。　【b. 自分の考えの状況】
 

図3　自分の考えをまとめた後、自分の考えの状況を表すプレートを提示する様子</td></tr>
</table>

	3．各々が選択した発表方法について伝え合い、アドバイスし合う。 ・自分が選択したコミュニケーション手段を理由とともに説明する。 ・各々が選択したものが、相手に伝わりやすいものになっているかに視点をおき、お互いに良い点、改善点をアドバイスし合う。 ※交流活動① 図４ 友人の発表を聞いて、アドバイスをする様子	１０分	・自分が選択したコミュニケーション手段を理由とともに説明する。 ・友人の発表を聞いて、良い点、改善点に気付くことができる。  図５ ハンドサインカードを板書に活用 ハンドサインをカード化して板書に活用したことで、友人からもらった付け足しの意見を常時振り返ることができた。 **※アドバイスをし合う場面では、教師が発表者と聞き手の仲介役となり、「質問」「付け足し」「ちがう考え」「賛成」の４つの視点で自分の考えと比較し意思表示できるようにした。** **【d. ハンドサインの活用】**	・自分が選択したコミュニケーション手段を理由とともに説明する。 ・友人の発表を聞いて、良い点、改善点に気付きアドバイスすることができる。	・自分が選択したコミュニケーション手段を理由とともに説明する。 ・友人の発表を聞いて、良い点、改善点に気付き進んでアドバイスすることができる。
	4．発表方法について、もう一度見直す。 ・友人からのアドバイスを受けて、自分の発表方法が相手に伝わりやすいものになっているか、もう一度見直す。 ※交流活動②	１０分	・友人からのアドバイスを参考にしたり、発表相手を再度確認したりすることを通して自分の考えを見直す。 **※友達からもらったアドバイスを教師と児童で個別に再確認しながら、自分の考えを修正する時間を十分確保した。** **【g. 考えの整理】** 再考察前の考えと再考察後の考えを比較できるように、カードを横並びに配置することで視覚的に自分の考えの変化をとらえやすくした。 そして、提出するカードを再考察前と再考察後の２枚用意したことも、考えの変化を比較するのに役立った。	・友人からのアドバイスを参考にしたり、発表相手をより一層意識したりして、自分の考えを見直す。	・友人からのアドバイスを参考にしたり、発表相手を意識したりして自分の考えを見直す。

まとめる	５．本時の学習をまとめる。 **全体のまとめ** 相手の知りたいことや興味のあること、学年を考えて、発表方法を決めるとよい。	５分	・自分が最初に選んだ発表方法が適切だったかどうか振り返り、相手にとって分かりやすい発表方法は、どのようなものか自分の言葉で表現する。	・自分が最初に選んだ発表方法が適切だったかどうか振り返り、相手にとって分かりやすい発表方法は、どのようなものか自分の言葉で表現する。	・自分が最初に選んだ発表方法が適切だったかどうか振り返り、相手にとって分かりやすい発表方法は、どのようなものか自分の言葉で具体的に表現する。
	６．本時の学習を振り返る。 ・本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	５分	・なかよし交流会での発表に向けてこれから頑張りたいことをロイロノートに記入する。	・なかよし交流会での発表に向けて、これから頑張りたいことをロイロノートに記入する。	・なかよし交流会での発表に向けて、これから頑張りたいことをロイロノートに記入する。

５　成果と課題

（１）成果

①【手立て１】に関わる成果

・自力解決の時間を十分確保できたことで、課題に対する「自分の考えの状況」を児童一人一人が確認することができた。

・「自分の考えの状況」を表すプレートを机上に提示したことで、教師と児童、児童間で課題解決の状況を把握しやすくなり、その後の交流でも生かすことができた。

・「自分の考えの状況」を表すプレートを自力解決後と再考察後の２度に渡って使用したことで、児童が自分の考えの変容に気付くことができ効果的だった。

②【手立て２】に関わる成果

・ハンドサインを板書にも活用したことで、友達の意見に対して「質問」「付け足し」「ちがう考え」「賛成」の４つの視点で自分の考えと比較し意思表示できた。目的意識をもって他者の意見を聞くことができた。

③【手立て３】に関わる成果

・再考察する時間を十分確保できたことで、児童が友達からもらったアドバイスを自分の意見に取り入れたり、修正したりする姿が見受けられた。

・再考察を通して自分の意見や考えに変化があった児童の理由に、「友達の意見を聞いて、内容に納得できたため、意見を改めた。」という記述があり、「自力解決→交流→再考察」という過程が自分の考えをより確かなものにする上で効果的であったことが分かった。

④その他

・児童が活動の見通しを明確にもつための視覚的支援が有効だった。
（やることリスト、単元計画の表示、クロームブック、大型モニターの使用、板書の構造化）

（２）課題

・児童の思考を促すような問い返しやゆさぶりの発問が不十分であったため、考えを練り上げるところまで児童を引き上げることができなかった。

・自分の意見や考えをロイロノートのカードに文字でまとめる児童がほとんどであったが、文字で表現しきれない場合は､図や絵を用いてもよいなど表現の幅を広げる声かけが必要であった。